

国語1		東京書籍株式会社（2東書）
特に優れている点	1 大阪市 施策	○【基礎】基礎的、基本的な知識を確実に習得できるように、各学年に応じたノートの作り方を掲載している。 ○【言語】1年生の促音、拗音を習得させるための活動では、リズムに合わせて手をたたくなどの動作化により、幼児教育からの円滑な接続について工夫がみられる。（1年上P39） ○【言語】単元ごとに扉ページを設け、単元を通して取り組む言語活動をわかりやすく掲載している。 ○【言語】日常生活に必要な国語の能力を育てるため、写真やグラフ・表を活用したりメモを使って自分の考えをまとめたりするなど、言語活動が具体的に提示されている。（5年P26, P98, P160） ○【読書】著名人が本について語る単元や、本の表紙・概要などわかりやすく紹介してあるページ等、児童が読書に興味をもちやすいよう数多くの工夫がある。（各学年「本は友達」「〇年生の本だな」） ○【伝統】伝統的な言語文化に関する事項が、1年昔話、2年言い伝え、3年落語、4年ことわざ・百人一首、5年古文、6年漢文・俳句・故事成語と、各学年で異なる教材が効果的に取り上げられている。（各学年「日本の言の葉」）
	2 その他	○巻末の付録に、その学年で身につけさせる言葉の力を、3つの領域ごとにまとめて提示している。児童にもわかりやすい。（各学年「ことばの力」） ○児童が興味をもつように、身近なメディアなどを用いている。（5年P201など） ○3つの領域の能力を伸ばすため話題や題材が偏らないよう配慮されている。
	3 全国 調査	○情報を活用し自分の意見を書くために、情報を比較・活用できるように教材を工夫している。（5年P65, 6年P61） ○高学年では、複数の文章や資料を読み取り、自分の考えを理由や読み取ったことを整理して書く力を育成するように配慮されている。（5年P194, 6年P90） ○書く力を身につけるため、日記などの書き方について丁寧に分かりやすく説明している。（1年下P48） ○話し合い活動のポイントについて、学級会と討論会の2つの教材に分けて学習することで、2段階のスマールステップを踏んでいてわかりやすい。
	4 外的 要素	○日本の四季を撮った鮮明な風景写真が掲載されていて、日本の四季を感じることができる。（各学年「日本語のしらべ」） ○表紙は色鮮やかで児童の楽しそうな活動が描かれている。 ○文字の大きさフォント、色使いが見やすく視覚的に分かりやすい。 ○写真やカットの大きさや位置など、児童の理解に有効的に掲載されている。
	5 構成 配列	○入門期には「みんなともだち」の言葉通り、何かを一緒に作り上げることで達成感や仲間意識を高める内容になっている。（1年上P1～P11） ○冒頭にあいさつを取り上げ、学校生活の第一歩としてのコミュニケーション力をつけることを意識している。（1年上P1～P11）
	6 資料	○2学年以上の教科書の冒頭に学習の流れを示してあり、児童が見通しをもって自主的に学習を進めることができる。 ○見開きでイラスト化して各領域ごとに教材を示すことで、年間の流れを児童がわかるようになっている。このことは自学自習を意識した手引きとして活用することができる。 ○巻末に物語文と説明文を載せてあり、並行読書や多読につながる。（各学年「言葉の世界」）
特に工夫・配慮を要する点	1 大阪市 施策	○【言語】既習漢字の練習ページでは、枠内に読み仮名が書いてありわかりにくい。（各学年「漢字の練習」）
	2 その他	○「読むこと」に関する題材について、海外文学の翻訳教材が少ない。
	3 全国 調査	○必要な言葉を落とさずに話すことを目的とした単元が少ない。
	4 外的 要素	○高学年が合冊であるため重い。 ○「スイミー」など、いくつかの教材において下地のイラストと文字が重なるなど、配慮に欠ける。（1年下P112）
	5 構成 配列	○「スイミー」を1年生の教材にするのは、発達段階から考えてむずかしい。
	6 資料	

国語	部外秘	教科用図書選定にかかる専門調査会調査結果 三省堂	記入責任者
1. 大阪府教育行政基本条例・教育振興基本計画に基づく観点			
グローバル化が進む国際社会で力強く生き抜くために対話や合意形成などを身につけ、論理的な思考力・判断力・表現力などを高めることができるよう、21世紀型能力を育成するアクティブ・ラーニングに対応した教材が充実している。基礎的・基本的な知識や技能を習得し、習得したことを自覚して、繰り返し活用することを通して定着させるよう、各領域とも学習の方法や重視する観点を明確に示している。特に、「読むこと」の「読み方を学ぼう」や「話すこと・聞くこと」、「書くこと」の「ポイント」に工夫を凝らし、確実に習得できるよう配慮している。特別支援教育の充実への配慮としては、「読み方を学ぼう」でわかりやすい図解を用いて内容を視覚的にとらえられるようにするなど、多くの工夫がなされている。また、色覚の特性を考慮し学びやすい配色にしたり、識別しにくい配色は避け説明文などの補助的な手がかりを設けたりするなど、カラーユニバーサルデザインに向けたさまざまな工夫がある。〈①②③④⑤⑥⑧⑨⑩〉			
2. 教育基本法に基づく観点			
真理を求める態度、豊かな情操と道徳心を養うことができる教材が全学年に採用されている。また創造性、自主・自立の精神、勤労を重んじる態度を養うことができる教材が全学年に採用されている。主体的に社会に参画する態度を養うことができる教材も全学年に採用されている。生命・自然の尊重、環境保全に寄与する態度を養うことができる教材が全学年に採用されている。伝統と文化を尊重し、他国を尊重して国際平和へ寄与する態度を養うことができる教材が全学年に採用されている。〈①②③④⑤〉			
3. 学習指導要領に基づく観点			
協同的な学習の基盤となる「場づくり」を重視した教材、対話型コミュニケーションや協同的な問題解決を位置づけた教材を配列し、仲間とともに学習の達成感を得られるようにしている。また、生徒の興味・関心を喚起する多彩な言語活動を取り上げて教材化されている。さらに、本の帯づくり・ブックトーク・ビブリオバトルなどの多彩な読書活動を採用し、生徒の興味・関心の幅を広げ知識を深め、読書に親しむとともに、読書を通してものの見方や考え方を広げ、自己を高めようとする態度を育てよう工夫している。〈①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫〉			
4. 全国学力・学習状況調査の結果に基づく観点			
各学年の「学びの道しるべ」の「学びをひろげよう」では、文章や図表の効果を考える課題、調べたことをまとめて発表する課題、条件をふまえて意見を述べる課題、読み比べる課題など、学力の定着・向上に資する多岐で効果的な言語活動を設定している。対話型のコミュニケーションスキルを養う教材が多く採用され、話の流れを捉えて話し合ったり、互いの発言を検討したりする力を育成できるようになっている。また、資料編では多様な辞書の活用の仕方を3学年にわたって系統的に示している。辞書を活用して語彙を豊かにし、確かにするための工夫が図られている。根拠を明確にして考えを述べることや文章構成を工夫して説得力のある文章を書くことについての方法がわかりやすい。〈①②③④〉			
5. 外的要素に関する観点			
生徒の発達段階に応じた文字の大きさの工夫がなされ、明朝体・ゴシック体等を適宜使い分け情報が整理しやすく、学習しやすいように工夫している。挿絵・図版を適所に配置し、生徒の学習意欲を喚起し、内容の理解を支えている。また、「読み方を学ぼう」や「話すこと・聞くこと」、「書くこと」教材の「ポイント」、図解による解説を用いることによって、生徒に理解しやすく配慮に定着しやすくし、学んだことを活用しやすいように工夫されている。〈①②③〉			
6. 構成・配列に関する観点			
指導事項の系統性・連続性が学年間においても学年間においても重視され、体系的な学習指導が工夫されている。基礎的・基本的な知識や技能を習得し、繰り返し活用することを通して定着させていけるよう、各領域とも学習の方法や重視する観点を明確に示している。特に、各学習領域のポイントに工夫を凝らし、確実に習得できるようにしている。各巻末折込の「読み方を学ぼう一覧」は、既習の内容も含めて掲載し、折にふれて振り返って活用し、確かな力として定着できるよう工夫されている。〈①②③④〉			
7. 資料その他に関する観点			
各学年の資料編では、発想法・思考法の使い方、メモの活用の仕方、インタビューの仕方など、学ぶ力を高めたり知識を整理できたりする教材を配列している。「読む力を伸ばそう」では、自学自習にも対応し、個に応じた実践的な読みの力を高めるための新しい試みをしている。「日本文学名作集」「学習用語辞典」も大いに学習に役立つものである。ただ、読書紹介の冊数が少なく、紹介文が簡潔過ぎるため、生徒の興味・関心を引くには工夫が少ない。〈①②③〉			